

令和 5 年 3 月 1 3 日

保護者各位

坂崎小学校長 都築 孝明

令和 4 年度 アンケートの結果と分析

12 月上旬に実施したアンケート調査へのご協力ありがとうございました。

その結果をもとに、去る 2 月 24 日（金）に「学校関係者評価委員会」を開催し、委員の皆様と分析・検討を行いました。アンケート結果から見た傾向や特徴は下記のとおりです。委員の皆様からいただいたご意見を踏まえ、次年度に生かしたいと思います。

なお、アンケート結果の詳細につきましても、近日中にホームページに掲載します。よろしく願いいたします。

◎ 児童への質問で「満足できる」と認められる項目

・「学校の行事は楽しく、積極的に参加している」	⇒94.9%
・「授業は分かりやすく楽しい」	⇒85.1%
・「授業では、分からないことをていねいに教えてもらえる」	⇒87.2%
・「自分が困ったり悩んだりしたときに相談できる友達がいる」	⇒84.7%
・「道徳の時間などを通して、命や仲間の大切さを学ぶことができる」	⇒94.9%
・「新型コロナウイルスの感染に気をつけた生活ができています」	⇒90.2%

明るく素直で、物事に前向きに取り組める子が多い本校の児童の様子がよく表れていると思われます。全体を通して子どもたちは、概ね良好な学校生活を送っていると考えます。

● 児童への質問で「改善を要する」と思われる項目

・「体育の授業や放課などで、積極的に体力づくり（運動）をしている」	⇒69.7%
・「進んで自分の意見や感想などを発表している」	⇒51.8%
・「授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている」	⇒60.5%
・「自分が困ったり悩んだりしたときに、相談できる先生がいる」	⇒69.7%

コロナ禍における各種運動の制限（パワータイムの中止）や授業におけるかかわり合いの時間が十分にとれなかったことなどの影響が大きいと考えられます。また、「相談できる先生がいる」の質問については、「あてはまらない」の回答が 13.9% あったことを深刻に受け止め、子どもたちが相談しやすい雰囲気や環境づくりを丁寧に行っていきたいと考えています。

また、学校関係者評価委員の皆様からは、「地域からも子どもたちとより積極的なかかわり合いをしていきたい」「授業において、正答を求めすぎることなく、挙手や発言などの参加する行動を大いに評価し、みんなで学び合う雰囲気づくりに努めてほしい」「声量にとらわれ過ぎず、心を込めたあいさつ、会釈などの場に応じたあいさつを求めていくのがよい」等の貴重なご意見をいただきました。今後も、地域や保護者との交流・体験活動を大切に、子どもたちを育てていきたいと考えています。

※ 分析の数値は、A「あてはまる」とB「だいたいあてはまる」を肯定的な評価ととらえ、それをもとに分析・検討を行いました。

また、A「あてはまる」+B「だいたいあてはまる」が

80%を上回るものは満足できる = ◎

70%を下回るものは改善を要する = ● と考えました。

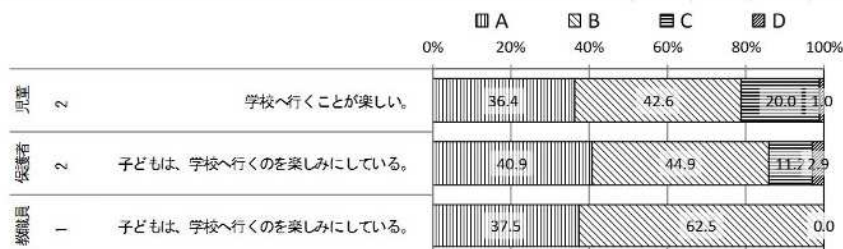
（問い合わせ 教頭 TEL 6 2 - 0 1 1 5）

学校教育活動の評価比較

A=あてはまる(そう思う) B=だいたいあてはまる(だいたいそう思う)
C=あまりあてはまらない(あまりそう思わない) D=あてはまらない(そう思わない)

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	2	学校へ行くことが楽しい。	36.4	42.6	20.0	1.0
保護者	2	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	40.9	44.9	11.2	2.9
教職員	1	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	37.5	62.5	0.0	0.0

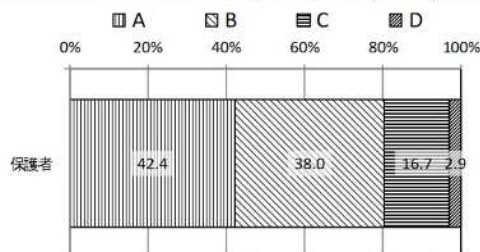
1



約80%の児童が「学校へ行くことが楽しい」と答えた。昨年とほぼ変わらない。保護者は86%で、こちらも昨年並みであった。学校での子どもたちの様子から、教職員は100%と回答した。三者とも80%を超えており、コロナ禍においても高い数値が出ている。今後も学校は楽しいと子どもたちが感じてくれるよう努力を続けたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	3	子どもは、毎日学校での出来事を話す。	42.4	38.0	16.7	2.9

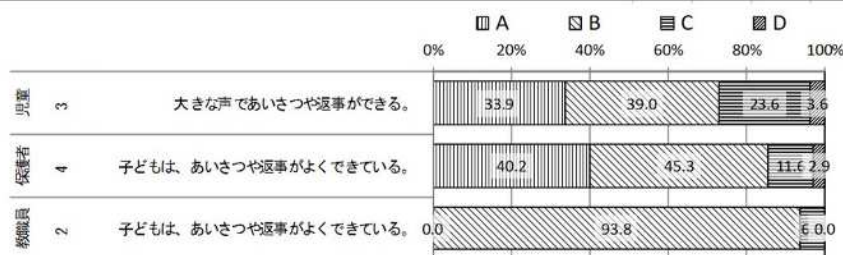
2



今年度はじめておこなった質問である。「よく話す」という回答が80%に達しているのは、まずは安心材料と言える。学校と家庭との連携を図るうえで、子どもと親、家族間での会話は、何よりも大切な部分であるとする。子どもたちがどうしても伝えなくなるような魅力的な授業、活動を充実させることが私たちの責務である。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	3	大きな声であいさつや返事ができる。	33.9	39.0	23.6	3.6
保護者	4	子どもは、あいさつや返事がよくできている。	40.2	45.3	11.6	2.9
教職員	2	子どもは、あいさつや返事がよくできている。	0.0	93.8	6.3	0.0

3



約73%の児童が「できている」と答えた。保護者は、約86%である。教職員は94%で、昨年度より30%増えた。コロナ禍においても、あいさつの大切さについて指導を続けてきた成果かもしれない。実際、来校される方々から「よく挨拶ができる」というお褒めの言葉を多くいただいている。心のこもったあいさつや会釈など、場に応じたあいさつを今後も呼びかけていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	4	学校の行事(坂フェスや学年行事など)は楽しく、積極的に参加している。	70.3	24.6	4.6	0.5
保護者	5	子どもは、学校行事(坂フェス・学年行事など)に積極的に参加している。	77.5	17.4	3.6	1.5
教職員	3	子どもは、学校行事(坂フェス・学年行事など)に積極的に参加している。	68.8	31.3	0.0	0.0

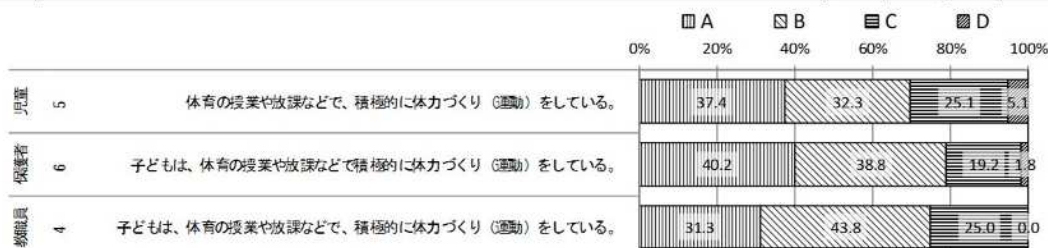
4



約95%の児童が「楽しい・積極的に取り組んでいる」と答えた。保護者も約95%で、どちらも昨年度と同じ程度である。コロナ禍で制約のある中、行事を子どもたちとともに楽しみながら創り上げてきた成果が表れているように感じる。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	5	体育の授業や放課などで、積極的に体力づくり(運動)をしている。	37.4	32.3	25.1	5.1
保護者	6	子どもは、体育の授業や放課などで積極的に体力づくり(運動)をしている。	40.2	38.8	19.2	1.8
教職員	4	子どもは、体育の授業や放課などで、積極的に体力づくり(運動)をしている。	31.3	43.8	25.0	0.0

5



児童は70%で、昨年より若干増えた。保護者は79%で微減、教職員は75%で微増である。コロナ禍前は児童は90%を超えていたため、制約の影響が未だあるように感じる。しかし、12月のけ足週間に降も朝のマラソンを続ける子がおり、最近放課外で元気に遊ぶ児童も増えてきた。体力づくりはすべての基本ととらえ、今後も積極的に取り組ませたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	6	授業は分かりやすく楽しい。	41.0	44.1	12.8	2.1
保護者	7	子どもは、授業が分かりやすく、楽しいと言っている。	28.6	42.0	26.1	3.3
教職員	5	子どもは、授業が分かりやすいと感じている。	0.0	75.0	25.0	0.0

6

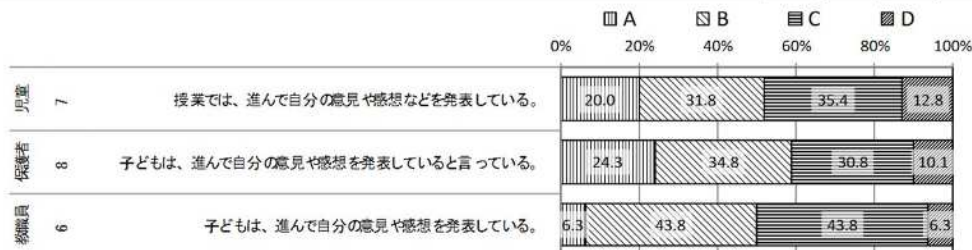


約85%の児童が「分かりやすく楽しい」と答えている。昨年度より5ポイント増加である。保護者は約71%で3ポイント減少である。教職員は75% (昨年度より15ポイント減少) で、授業づくりに対して不安な面が増えてきたようである。今年度も、一人一研究授業は実践でき、研鑽を積んだ。ユニバーサルデザインの視点を生かし、全員参加の授業を常に心がけていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	7	授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している。	20.0	31.8	35.4	12.8
保護者	8	子どもは、進んで自分の意見や感想を発表していると言っている。	24.3	34.8	30.8	10.1
教職員	6	子どもは、進んで自分の意見や感想を発表している。	6.3	43.8	43.8	6.3

7



発表形式の授業が随分戻ってきたが、「進んで発言している」と答えた児童は52%程(昨年度より3ポイント増加)であった。保護者は約60%。教職員は50%である。進んで発言しようとする意識を高めさせるよう、発問等も工夫しながら、指導を継続的に行ってきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	8	授業では、友達の見や感想をよく聞くようにしている。	23.6	35.9	30.8	9.7
保護者	9	子どもは、友達の見や感想を聞くようにしていると言っている。	35.5	44.2	17.4	2.9
教職員	7	子どもは、友達の見や感想を聞くようにしている。	18.8	62.5	12.5	6.3

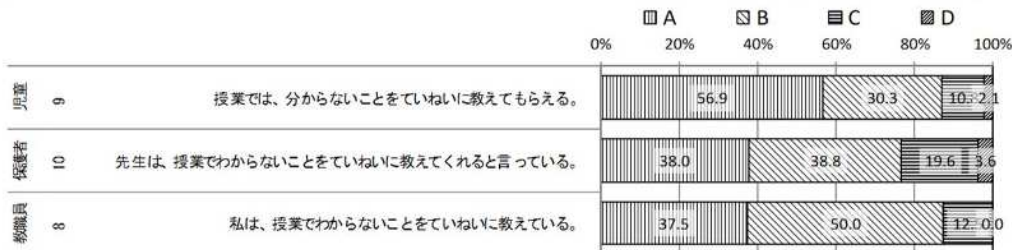
8



約60%の児童が「友達の見や感想を聞くようにしている」と答えた。昨年度よりかなり減少しており、私どもも深刻に受け止めている。関わり合いを推奨する上で、しっかり話を聞く姿勢は徹底させたい思いである。保護者や教職員の回答とのずれも気になる。授業のみならず、全校朝会や集会の場、朝夕の会等、様々な場面でしっかり話が聴けるよう、継続して指導をしていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	9	授業では、分からないことをていねいに教えてもらえる。	56.9	30.3	10.8	2.1
保護者	10	先生は、授業で分からないことをていねいに教えてくれると言っている。	38.0	38.8	19.6	3.6
教職員	8	私は、授業で分からないことをていねいに教えている。	37.5	50.0	12.5	0.0

9

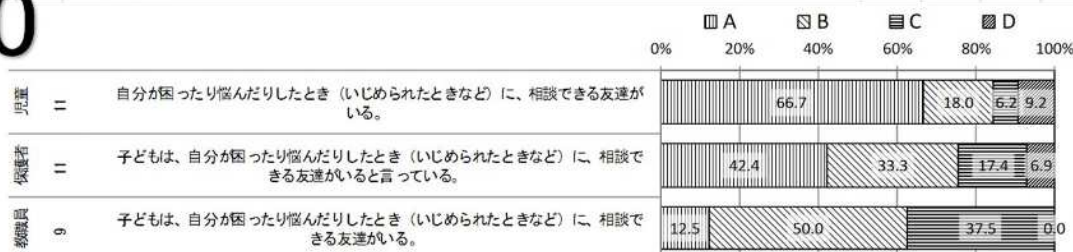


約87%の児童が「分からないことを教えてもらえる」と答えた。昨年度とほぼ同じ割合である。保護者は77%でこちらも昨年並みである。教職員は88%ある。コロナ禍で、より丁寧な指導の必要性を感じるが、子どもと教師間では、ほぼ同じ割合であった。今後も子どもたち一人一人に目を向け、子どもの思いに寄り添った授業ができるように努力したい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	11	自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、相談できる友達がいる。	66.7	18.0	6.2	9.2
保護者	11	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、相談できる友達がいると言っている。	42.4	33.3	17.4	6.9
教職員	9	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、相談できる友達がいる。	12.5	50.0	37.5	0.0

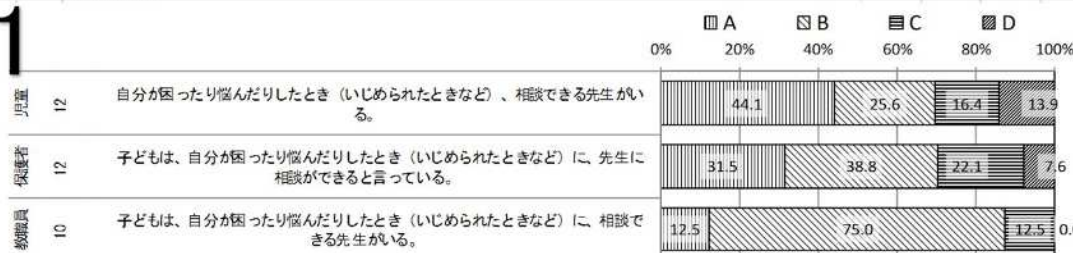
10



約85%の児童が「相談できる友達がいる」と答えた。昨年度とほぼ同じである。保護者は約76%で、5ポイント増加である。教職員は約63%と答え、昨年よりも下回っているが、その心配は子どもの回答の結果から、嬉しい誤算ととれる。しかし、残りの15%に目を向けた指導が何よりも大切である。これからも、子どもたちの良好な関係づくりに努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	12	自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)、相談できる先生がいる。	44.1	25.6	16.4	13.9
保護者	12	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、先生に相談ができると言っている。	31.5	38.8	22.1	7.6
教職員	10	子どもは、自分が困ったり悩んだりしたとき(いじめられたときなど)に、相談できる先生がいる。	12.5	75.0	12.5	0.0

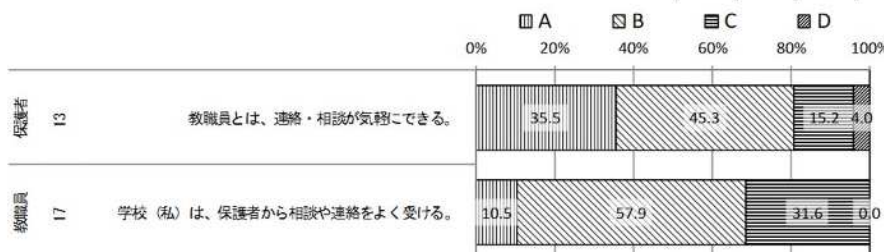
11



約70%の児童が「相談できる先生がいる」と答え、全体としては昨年度を6ポイント下回った。保護者も約70%、教職員は88%であった。家庭と学校で意識の差が感じられるので、子どもたちが心を開いて、教職員に安心して相談できるような関係を築いていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	13	教職員とは、連絡・相談が気軽にできる。	35.5	45.3	15.2	4.0
教職員	17	学校(私)は、保護者から相談や連絡をよく受ける。	10.5	57.9	31.6	0.0

12



今年度はじめておこなった質問である。「気軽に相談できる」と感じる保護者は約81%、「よく相談を受ける」と感じる教職員は約68%であった。より信頼される学校をめざし、普段から家庭との連絡を自然に行いながら、子どものよりよい成長を支えていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	14	教職員は、子どもの気持ちをよく理解し、人権を尊重している。	41.3	48.6	8.0	2.2
教職員	12	私は、子どもの気持ちをよく理解し、人権を尊重している。	25.0	68.8	6.3	0.0

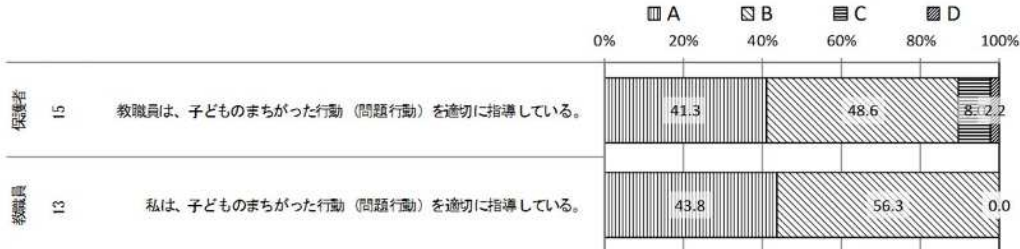
13



約90%の保護者が「先生は子どもの気持ちを理解し、人権を尊重している」と答え、昨年より8ポイント上回った。今後も子どもたち一人一人の気持ちを理解することに努め、家庭と連携しながらよりよい学級経営を行っていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	15	教職員は、子どものまちがった行動(問題行動)を適切に指導している。	41.3	48.6	8.0	2.2
教職員	13	私は、子どものまちがった行動(問題行動)を適切に指導している。	43.8	56.3	0.0	0.0

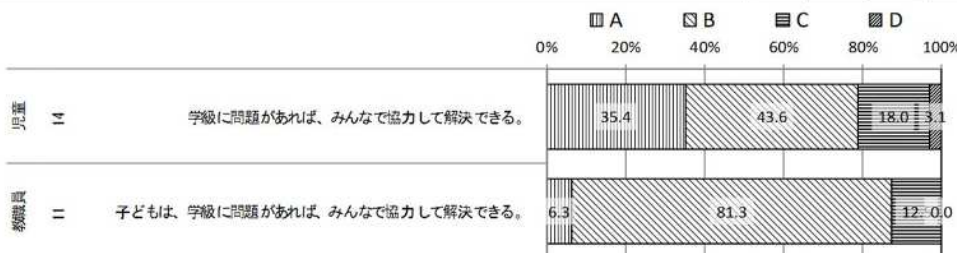
14



約90%の保護者が「適切に指導している」と答え、昨年より6ポイント上回った。指導の意図がきちんと伝わるように、今後も子どもの行動をよく把握し、適切に指導できるように努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	14	学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる。	35.4	43.6	18.0	3.1
教職員	11	子どもは、学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる。	6.3	81.3	12.5	0.0

15



79%の児童が「みんなで協力して解決できる」と答えた。昨年度とほぼ同じ数値である。教職員は88%で、昨年より微減である。子ども同士の自治意識を高められるように、諸問題を自分たちで解決できるような手立てを教職員が考えるなど、よりよい学級づくりに努めていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	10	道徳の時間などを通して、命や仲間の大切さを学ぶことができる。	63.1	31.8	4.1	1.0
保護者	17	学校は、道徳の時間等を通して、命や仲間を大切にする心を育もうとしている。	45.7	47.5	6.2	0.7
教職員	15	私は、道徳の時間等を通して、命や仲間を大切にする心を育もうとしている。	50.0	43.8	6.3	0.0

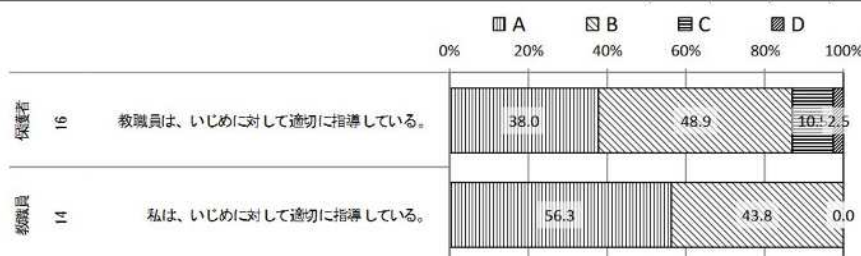
16



約94%の児童と保護者が「適切に指導している」と答え、ほぼ昨年並みである。道徳の指導がより充実されるよう、教員の力量向上に努めるとともに、学校生活全般で、道徳教育に一層力を入れていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	16	教職員は、いじめに対して適切に指導している。	38.0	48.9	10.5	2.5
教職員	14	私は、いじめに対して適切に指導している。	56.3	43.8	0.0	0.0

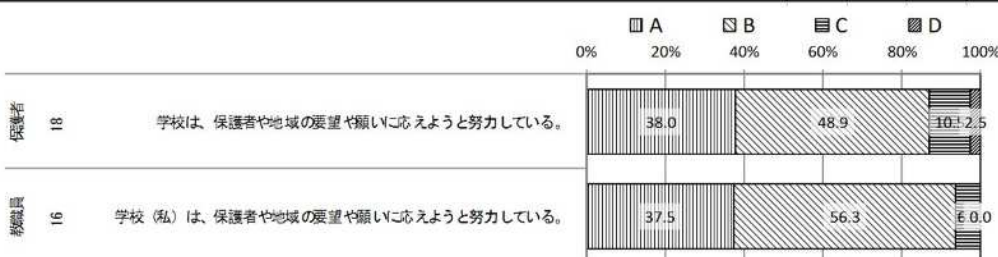
17



約87%の保護者が「適切に指導している」と答え、昨年度より3ポイント増加した。今後も「いじめは絶対に許さない」「いじめは決して起こさせない」を強く意識し、児童の普段の様子を把握したり、児童アンケートを活用したりして適切に指導していきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	18	学校は、保護者や地域の要望や願いに応えようと努力している。	38.0	48.9	10.5	2.5
教職員	16	学校(私)は、保護者や地域の要望や願いに応えようと努力している。	37.5	56.3	6.3	0.0

18

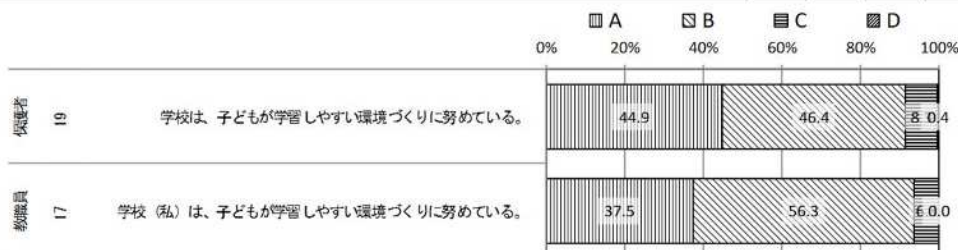


保護者は約87%、教職員は94%が「要望や願いに応えようとしている」と答えた。どちらも昨年度並みである。今年度も様々な制約があり、地域などの要望に十分お応えできなかった部分もあったかと思われるが、努力を感じていただけたことは大変ありがたいと思う。今後も保護者や地域の声を真摯に受け止め、よりよい学校づくりに努めていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	19	学校は、子どもが学習しやすい環境づくりに努めている。	44.9	46.4	8.3	0.4
教職員	17	学校(私)は、子どもが学習しやすい環境づくりに努めている。	37.5	56.3	6.3	0.0

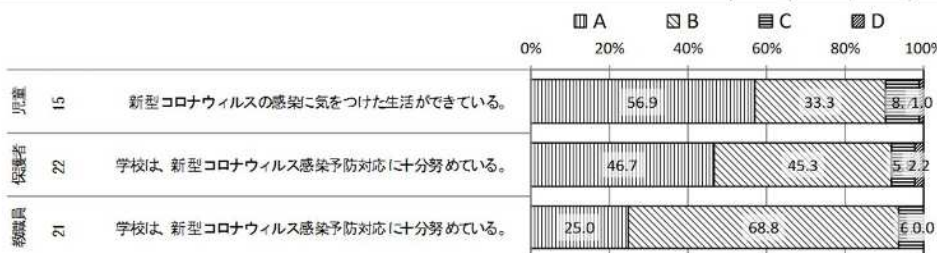
19



約91%の保護者が「環境づくりに努めている」と答えた。昨年度より微減である。教職員は94%(昨年度並)であった。今後も保護者の願いに応えられるような環境づくりに努めていきたい。

類	No	診断内容	A	B	C	D
児童	15	新型コロナウイルスの感染に気をつけた生活ができている。	56.9	33.3	8.7	1.0
保護者	22	学校は、新型コロナウイルス感染予防対応に十分努めている。	46.7	45.3	5.8	2.2
教職員	21	学校は、新型コロナウイルス感染予防対応に十分努めている。	25.0	68.8	6.3	0.0

20



児童の約90%、保護者の92%が「感染に気をつけた生活ができている」「学校は感染予防対応に努めている」と答えた。どちらも昨年度並みの結果である。教職員は94%で、10ポイント程増加した。今後も対策をしっかりととりながら、学校生活の保障をしていきたいと考えている。

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	20	学校は、避難訓練や交通安全指導等、安全・安心な学校づくりに努めている。	58.3	38.4	2.5	0.7
教職員	19	学校(私)は、避難訓練や交通安全指導等、安全・安心な学校づくりに努めている。	57.9	42.1	0.0	0.0

21

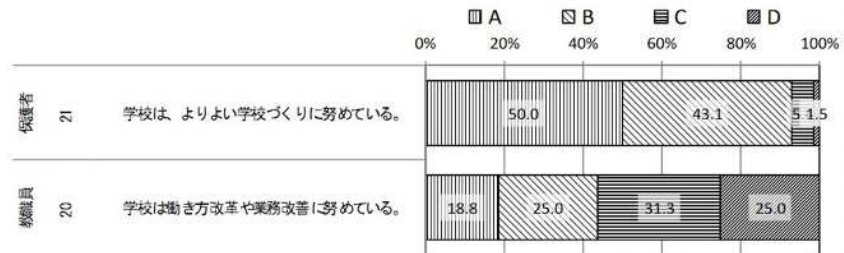


約97%の保護者が「安全・安心な学校づくりに努めている」と答えた。今後も危機管理や安全教育に力を入れ、子どもたちの安全を考えた学校づくりに努めていきたい。

学校教育活動の評価比較

類	No	診断内容	A	B	C	D
保護者	21	学校は、よりよい学校づくりに努めている。	50.0	43.1	5.4	1.5
教職員	20	学校は働き方改革や業務改善に努めている。	18.8	25.0	31.3	25.0

22



約93%の保護者が「よりよい学校づくりに努めている」と答えた。昨年度が93%であり、この質問の始まった3年前から続けて、高い支持をいただいている。教職員の働き方改革に関する意識は、まだまだ自身の改革や業務改善が整っていないと感じているようである。多忙化解消をすることで、教職員がいつも元気に子どもたちへの指導ができるにしていきたい。